

新春対談

平成30年の新春区長対談は、ノンフィクション作家・柳田邦男氏と西川区長が、人生における絵本の関わりや、ゆいの森あらかわに込めた思いについて語り合いました。

絵本は人生で三度楽しめる

司会 ゆいの森あらかわには、3万冊もの絵本が蔵書できるそうですが、西川区長ご自身も大変な読書家だそうですね。

区長 父や中学の恩師の影響で、子どもの頃からたくさん本を読んできました。今でも、区長室には、手の届くところに本があります。また、柳田先生の「絵本は人生で三度楽しめる」というご指導のもと、300冊くらいの絵本を置いて、職員に貸し出しています。



柳田氏 私が絵本を紹介するようになったのは、自分が子育てをしていた1960年代で、日本の絵本が隆盛期を迎えた頃でした。素晴らしい絵本がどんどん発売されるようになり、夢中で子どもに読み聞かせをしていたのを思い出します。もう何十回読んだかわからないくらい子どもと一緒に読み、自分も絵本が好きになったのが最初のきっかけです。子どもが成長し、読み聞かせからは離れた時期に、第二のきっかけが訪れます。次男が亡くなり、その喪失の中で、書店の絵本棚の前で絵本を見ていたら、子どもに読み聞かせをしていた頃のことを思い出したんです。思わず購入して自宅で読み始めました。そうすると、命とはなんだろう、生きるうえで大事なものは何だろうというようなことが、絵本に書いてある。



絵本は人生を豊かにする

人生経験が豊富になった分、絵本を深く読めるんです。子どもに読み聞かせをしていたときは、一緒に楽しむことに夢中でしたが、今度は自分のために読むようになって、そうすると、初めて読んだ文学のように読めるんです。そこで、「絵本は人生で三度楽しめる」という言葉が頭にひらめきました。「幼少期」「子どもへの読み聞かせ期」「人生の後半期」の三度、楽しむことができます。こういう呼びかけを、いろんな機会にするようになりました。

絵本から気付くこと

区長 区では、柳田邦男先生のお名前を冠した柳田邦男絵本大賞を平成20年度から実施しています。絵本の感想、子どもに対する読み聞かせ体験等を、柳田先生への手紙にして届けてもらうもので、平成29年度も子どもから大人まで多くの方に応募していただきました。小さい頃に絵本を読む習慣を身に付けると、発想力・想像力・表現力等が自然に身に

についていきますよね。
柳田氏 いただいたものは、単なる感想文ではないんです。家族の情景がにじみ出ている、小学生が自分の心を見つめ直して、人生が変わったということが書かれていたりするのを見て、やはり人格形成において、幼い頃から絵本に関わることは大切だということを感じました。ここ数年は、毎年子どもたちから約1000通、大人から数十通のお便りが届いています。10年経ち、子どもたちが絵本というものを見直してくれていると実感しています。それから、保護者の気付きというのも素晴らしいです。ある保護者は、それまで子どもの失敗ばかりが目になっていたのが、絵本を読み聞かせることによって、少しでもできたことに注目するようになり、これからは一生懸命褒めて育てようと思うようになった、と書かれていました。絵本と一緒に読み聞かせしていると、気付くことがたくさんあって、子育ての基本を学ぶことができるんですね。

に育ってほしいという願いが込められています。また、区立小・中学校では、子どもたちの疑問を解決するための本や、興味や関心に応じた本を選ぶ手助けができるように、すべての図書館に学校司書を配置しています。
柳田氏 絵本の選び方には、決まりはありません。書店や図書館に行き、心が引き付けられる絵本を手にとってみる。次に、最初のページの文を読んでみる。少しページをめくって、おもしろそうだなと思ったら、その絵本を読む。月に1冊読むと、1年間で12冊。絵本に親しむことが、子どもの世代、孫の世代へと伝わる財産になり、その家庭に代々伝わっていく文化になる。その第一歩になるような活動に、少しでも協力できればと考えています。

あらかわの未来に続くページ

柳田氏 ゆいの森あらかわを建設する際の検討に私も委員として参画させて頂いたのですが、図書館が心の癒しの場であったり、子どもたちの人格形成の場であったり、あるいは親子が仲良く本を読める場になるようにコンセプトを固めていきました。2階から4階を

柳田 邦男 (やなぎだ・くにお)

1936年(昭和11年)、栃木県生まれ。東京大学経済学部卒業。1995年(平成7年)「犠牲(サクリファイス)ーわが息子・脳死の11日ー」で菊池寛賞、2005年(平成17年)「エリカ 奇跡のいのち」で日本絵本賞翻訳絵本賞受賞。柳田先生は、荒川区の読書推進活動に共鳴していただき、それが2008年(平成20年)の「柳田邦男絵本大賞」の創設につながりました。個人的な体験が書きやすいようにと、絵本の感想等を柳田先生に宛てた手紙形式になっているのが特徴です。



段差のある吹き抜け構造にして、4階と5階のテラス部分に大きなプランターを置いて、木を植えるようにしました。やがて木が育ってくると、図書館が森を抱えているような感じになる。森の中にあるテラスに出て本を読めるような場所にしました。また、ゆいの森ホールには、両面の壁いっぱい、絵本の表紙が見えるように飾っています。これは、絵本でいっぱいの子どもの頭の中、というイメージなんです。思いやりや優しい心が育ってほしいという意味を込めています。
区長 ゆいの森あらかわは、柳田先生を含め、たくさんの方にご協力いただき開館することができました。開館したことによりその周辺地域の活性化につながっています。私は、毎日のようにゆいの森あらかわに行っているんです。子どもたちがテーブルを囲んで勉強をしたり、本を読んでいる姿を見ると、本当にうれしくなります。大人の方も大勢いらっしゃいますし、お茶を飲みながら、語り合う姿も見られます。区民の皆様が楽しそうに利用している姿を見るのがうれしいです。

区民の皆様には、ゆいの森あらかわを始め、区の施設をたくさん利用してほしいです。そして、そこに集う笑顔がたくさん増えるように、区民の皆様幸せを最大にできるように、今後も区政への声をしっかり受け止めて職員一丸となって全力で取り組んでいきたいと思っております。本年もよろしくお願いいたします。

